

投資家の皆様へ

ピーシーイー・アセット・マネジメント株式会社

世界的な株価急落とインド株式市場について

7月26日の米国株式市場はニューヨークダウ工業株30種インデックスが前日比-2.26%、S&P500種インデックスが前日比-2.33%と大幅な下落となりました。

主な下落要因は、米国のサブプライムローン(信用力の低い個人向け住宅ローン)問題の再燃や、長期の資金調達の問題でいくつかのLBO(レバレッジド・バイ・アウト)が実現されなかったことなどがあげられます。また、モーゲージ証券に投資しているヘッジ・ファンドが閉鎖に追い込まれるなど問題が深刻化しています。一般投資家にとってはサブプライムローン問題がどの程度深刻なのか見極めがつかないことが、不安心理を高めています。加えて、先週発表された米国の6月の新築住宅販売件数が予想を下回ったことなども市場心理の悪化に拍車をかけました。

米国株式市場の下落を受け、世界的に株価が急落し、7月27日のインド株式市場は代表的な株価指数であるNifty指数が前日比-3.8%と大きな下落となりました。全業種が値下がりし、とりわけ不動産、金属、資本財、メディアの下落が大きくなりました。インド株式市場はこれまで流動性主導で値上がりが続いており、バリュエーションは割高な水準となっていたため、株価調整が起こりやすい局面にありましたが、当面、以下の点には留意が必要です。

- ・バリュエーション
- ・モンスーンが農業に与える影響
- ・需要超過による生産コストの上昇
- ・インド・ルピー高による輸出企業への悪影響
- ・原油価格の上昇
- ・準備預金率の引き上げの可能性

しかしながら、力強い経済指標、好調な企業業績、インフレ率の低下など経済のファンダメンタルズは良好であり、中期的にみてインド経済の成長は続くと思われます。

当面、インド株式市場は世界的な動揺の影響を受ける可能性はありますが、インド経済は国内の消費需要が大きくなっており、以前に比べて世界経済の影響は小さくなっています。他の東南アジア市場に比べると割高になっていたバリュエーションも、適正水準に戻ってきています。株価が現在の水準からさらに下げるようなことがあれば、投資チャンスであると考えています。